

再 評 価 対 象  
河 川 事 業 概 要

平成21年3月6日  
河 川 部

# 中部地方整備局管内 河川事業



## 再評価対象河川事業一覧表

事業名	事業進捗状況	社会経済情勢	費用対効果 B/C	再評価理由	対応方針 (原案)
天竜川 (河川改修事業)	堤防整備率 66% 現在の主要整備内容 上流：河川激甚災害対策特別 緊急事業(H18～) 下流：河道掘削	災害発生時の影響 浸水想定区域内：面積約41,000ha 人口約91万人(H17国調)  過去の災害実績 S36年6月洪水：浸水面積 5,507ha(全川) 被災家屋数 9,535戸(全川) S43年8月洪水：浸水面積 738ha(全川) 被災家屋数 2,565戸(全川) S58年9月洪水：浸水面積 2,034ha(全川) 被災家屋数 6,644戸(全川) H18年7月洪水：浸水面積 661ha(上流) 被災家屋数 2,935戸(上流) 沿川の飯田市、浜松市等は河川改修の促進を要望	29.4	再評価後、一定期間(5年)が経過している事業	継続
天竜川 (総合水系環境整備事業)	事業進捗率 約30%  現在の主要整備事業 下流：河輪地区利用推進事業 (水辺の楽校整備) H19～H20  上流：三峰川及び天竜川自然再生事業 (礫河原再生) H17～	天竜川では、周辺自治体等の整備とあわせて河川空間整備を実施した結果、舟下り・ラフティング、河川敷の公園を利用したスポーツや散策、水遊び等で年間約190万人の方が利用するとともに、河原維持のため外来生物の進入に対して、市民団体等と連携した駆除活動が行われている。(平成18年度 河川空間利用実態調査)  地域のニーズは、今後良好な自然環境の保全・再生を図るとともに、水面や河岸の利用、スポーツ等に利用できる拠点等のさらなる施設整備が求められている。	2.1	事業採択後10年間が経過した時点で継続中の事業	継続

<p>矢作川 (河川改修事業)</p>	<p>堤防整備率 35% 現在の主要整備内容 下流：築堤、堤防整備 中流：浸透対策</p>	<p>災害発生時の影響 浸水想定区域内：面積約27,000ha 人口62.7万人（H17国調）</p> <p>過去の災害実績 S34年9月洪水：浸水面積 994ha（全川） 被災家屋数 23,444戸（全川） S36年6月洪水：浸水面積 5,709ha（全川） 被災家屋数 1,520戸（全川） S44年8月洪水：浸水面積 2,738ha（全川） 被災家屋数 628戸（全川） S47年7月洪水：浸水面積 3,004ha（全川） 被災家屋数 20,728戸（全川） H12年9月洪水：浸水面積 1,798ha（上流） 被災家屋数 2,801戸（上流）</p> <p>沿川の豊田市、岡崎市等は河川改修の促進を要望</p>	<p>19.0</p>	<p>再評価後、一定期間（5年）が経過している事業</p>	<p>継続</p>
<p>矢作川 (総合水系環境整備事業)</p>	<p>事業進捗率 約23%  現在の主要整備事業 大門地区利用推進事業 (水辺プラザ整備) H18～H20</p>	<p>矢作川では、周辺自治体等の整備とあわせて河川空間整備を実施した結果、河川敷の公園を利用したスポーツやキャンプ・散策等で年間約76万人の方が利用している。 (平成18年度 河川空間利用実態調査)</p> <p>近年、河川の樹林化が進行し、コアジサシ等の矢作川の特徴的な種が減少するとともに、地域の方々からかつての白い河川に戻してほしいとの意見やこれまでの散策・サイクリング・公園整備などの他、水遊び・自然観察といった多様なニーズが求められている。</p>	<p>8.3</p>	<p>事業採択後10年間に経過した時点で継続中の事業</p>	<p>継続</p>

平成20年度 継続箇所 河川改修事業の評価書

事業名	天竜川（河川改修事業）		
河川名・水系名	天竜川	事業主体	天竜川上流河川事務所 浜松河川国道事務所
所在地	河口～長野県上伊那郡辰野町大字平出地先		
事業着手年度	下流部：明治17年 上流部：昭和22年	用地着手	－
再評価実施理由	再評価実施後、一定期間（5年）が経過している事業		
実施内容	河道掘削、樹木伐開、引堤、工作物の改築等の水位低下対策、護岸整備等の堤防強化対策		
全体事業費	約680億円（平成19年度価格）		
事業の目的	浜松市、磐田市、飯田市、伊那市等を洪水被害等から防御する河道掘削等の水位低下対策、護岸整備等の堤防強化対策等を行う。		
再評価の概要	<p>1. 事業の必要性</p> <p>（1）事業をめぐる社会情勢</p> <p>①浸水想定区域内面積：約41,000ha</p> <p>②"人口：約910,000人（H17国調）</p> <p>③"資産額：約160,000億円（H19評価額）</p> <p>④重要な公共施設等：東名高速道路、国道1号、JR東海道新幹線、JR東海道線等、浜松市・磐田市・飯田市等の施設</p> <p>⑤災害弱者関連施設：病院12施設、福祉施設95施設</p> <p>（2）事業の投資効果</p> <p><math>B/C = 29.4</math></p> <p>（3）事業の進捗状況</p> <p>堤防整備率（H20.3末）= 66%</p> <p>2. 事業進捗の見込み</p> <p>当面の目標に対する河川改修事業は、学識経験者、関係住民、関係自治体等の意見を聴き整理したものであり、事業実施は適切と考える。</p> <p>3. コスト縮減の可能性・代替案の可能性</p> <p>新技術の積極的な採用や掘削土砂の有効利用など、引き続きコスト縮減に努める。</p> <p>当面の目標に対する河川改修事業は、現時点の流域における社会経済状況、自然環境の状況、河道状況等を前提としてコスト縮減や代替案も含めて検討しており、今後もこれらの変化や新たな知見、技術の進歩等により、必要に応じて適宜見直しを行う。</p> <p>○対応方針</p> <p>本事業を継続する。</p>		

平成20年度 継続箇所 総合水系環境整備事業の評価書

事業名	天竜川（総合水系環境整備事業）		
河川名・水系名	天竜川	事業主体	天竜川上流河川事務所 浜松河川国道事務所
所在地	河口～長野県上伊那郡辰野町大字平出地先		
事業着手年度	下流部：平成12年 上流部：平成17年	用地着手	－
再評価実施理由	事業採択後10年間が経過した時点で継続中の事業		
実施内容	散策路整備、礫河原の再生、天竜川周遊プラン、ダム周辺整備 船着き場・階段護岸整備		
全体事業費	約114億円（平成20年度価格）		
事業の目的	本事業は、地域との合意形成を図りながら、現在の良好な景観の維持・形成、人と川との豊かなふれあいの増進のための場の整備等を行い河川環境の整備と保全を進める。		
再評価の概要	<p>1. 事業の必要性</p> <p>(1) 事業をめぐる社会情勢 天竜川では、周辺自治体等の整備とあわせて河川空間整備を実施した結果舟下り・ラフティング、河川敷の公園を利用したスポーツや散策、水遊び等で年間約190万人の方が利用するとともに、河原維持のため外来生物の進入に対して、市民団体等と連携した駆除活動が行われています。 今後良好な自然環境の保全・再生を図るとともに、水面や河岸の利用、スポーツ等に利用できる拠点等のさらなる施設整備が求められています。</p> <p>(2) 事業の投資効果 <math>B/C = 2.1</math></p> <p>(3) 事業の進捗状況 事業進捗率 約30%（平成20年度末見込み）</p> <p>2. 事業進捗の見込み 本事業は、学識経験者、関係住民、関係自治体等の意見を聴き整理したものであり、事業実施は適切と考える。</p> <p>3. コスト縮減の可能性・代替案の可能性 新技術の積極的な採用や掘削土砂の有効利用など、引き続きコスト縮減に努める。 なお、本事業は現時点の流域における社会経済状況、自然環境の状況、河道状況等を前提としてコスト縮減や代替案も含めて検討しており、今後もこれらの変化や新たな知見、技術の進歩等により、必要に応じて適宜見直しを行うものとする。</p> <p>○対応方針 本事業を継続する。</p>		

平成20年度 継続箇所 河川改修事業の評価書

事業名	矢作川（河川改修事業）		
河川名・水系名	矢作川	事業主体	豊橋河川事務所
所在地	河口～愛知県豊田市川田町三丁目七番地先		
事業着手年度	昭和8年	用地着手	—
再評価実施理由	再評価実施後、一定期間（5年）が経過している事業		
実施内容	樹木伐開、河道掘削、堤防強化、護岸整備 等		
全体事業費	約940億円		
事業の目的	豊田市、岡崎市、西尾市等を洪水被害等から防御するとともに、河川が適正に利用され、流水の正常な機能が維持され、河川環境の整備と保全がされるように、河道掘削、堤防強化、護岸整備等の河川改修を行う。		
再評価の概要	<p>1. 事業の必要性</p> <p>(1) 事業をめぐる社会情勢</p> <p>①浸水想定区域内面積 : 約 27,000ha</p> <p>② " 人口 : 約627,000人 (H17国調)</p> <p>③ " 資産額 : 約103,776億円</p> <p>④重要な公共施設等 : 東名高速道路、国道1号、JR東海道新幹線、JR東海道線等、豊田市・岡崎市等の都市施設</p> <p>⑤災害弱者関連施設 : 保育園、老人ホーム等福祉施設451施設、学校220施設</p> <p>(2) 事業の投資効果</p> <p><math>B/C = 19.0</math></p> <p>(3) 事業の進捗状況</p> <p>堤防整備率 (H20.3末) = 35%</p> <p>2. 事業進捗の見込み</p> <p>当面の目標に対する河川改修事業は、学識経験者、関係住民、関係自治体等の意見を聴き整理したものであり、事業実施は適切と考える。</p> <p>3. コスト縮減の可能性・代替案の可能性</p> <p>新技術の積極的な採用や掘削土砂の有効利用など、引き続きコスト縮減に努める。</p> <p>当面の目標に対する河川改修事業は、現時点の流域における社会経済状況、自然環境の状況、河道状況等を前提としてコスト縮減や代替案も含めて検討しており、今後もこれらの変化や新たな知見、技術の進歩等により、必要に応じて適宜見直しを行う。</p> <p>○対応方針</p> <p>本事業を継続する。</p>		

平成20年度 継続箇所 河川改修事業の評価書

事業名	矢作川（総合水系環境整備事業）		
河川名・水系名	矢作川	事業主体	豊橋河川事務所
所在地	河口～愛知県豊田市川田町三丁目七番地先		
事業着手年度	平成11年	用地着手	—
再評価実施理由	事業採択後10年間が経過した時点で継続中の事業		
実施内容	砂州・ヨシ原・干潟の再生、河川空間整備 等		
全体事業費	約43億円		
事業の目的	本事業は、地域との合意形成を図りながら、多様な動植物の生息・生育環境の保全・再生、流域の人々に親しまれる川になるような場の整備等を行い河川環境の整備と保全を進める。		
再評価の概要	<p>1. 事業の必要性</p> <p>(1) 事業をめぐる社会情勢          矢作川では、周辺自治体等の整備とあわせて河川空間整備を実施した結果、河川敷の公園を利用したスポーツやキャンプ・散策等で年間約76万人の方が利用している。（平成18年度 河川空間利用実態調査）          近年、河川の樹林化が進行し、コアジサシ等の矢作川の特徴的な種が減少するとともに、地域の方々からかつての白い河川に戻してほしいとの意見やこれまでの散策・サイクリング・公園整備などの他、水遊び・自然観察といった多様なニーズが求められている。</p> <p>(2) 事業の投資効果  <math>B/C = 8.3</math></p> <p>(3) 事業の進捗状況          事業進捗率 約18% （平成20年度末見込み）</p> <p>2. 事業進捗の見込み          本事業は、学識経験者、関係住民、関係自治体等の意見を聴き整理したものであり、事業実施は適切と考える。</p> <p>3. コスト縮減の可能性・代替案の可能性          新技術の積極的な採用や掘削土砂の有効利用など、引き続きコスト縮減に努める。          なお、本事業は現時点の流域における社会経済状況、自然環境の状況、河道状況等を前提としてコスト縮減や代替案も含めて検討しており、今後もこれらの変化や新たな知見、技術の進歩等により、必要に応じて適宜見直しを行うものとする。</p> <p>○対応方針          本事業を継続する。</p>		